

## ⑩ 健やか親子

### 現 状

- 妊娠中の喫煙率は、平成14年度が10.8%でしたが平成21年度には5.9%へと大きく改善しました。
- 妊娠中の飲酒率は、平成21年度において愛知県の間接報告と同数値の2.9%となっています。国の現状値は18.1%ですので、はるかに下回っています。
- 母乳のみで育てる人の割合（生後1か月）は、平成21年度において43.5%であり、愛知県の現状値47.6%より若干低い結果となっています。およそ半数の人が母乳育児をしています。
- BCG予防接種の接種率は、平成14年度の63.6%に比べて、平成21年度は97.9%と大きく改善しました。これは平成17年度から「直接接種」※21が導入されたことによるものです。
- 平成21年度に実施した「健診時アンケート」によると、育児について相談相手がいる母親の割合は93.0%で、「家族・親類の相談者」の割合が高く示されています。（図1）
- 子育てを楽しんでいる親の割合は59.0%、楽しくないと感じている親の割合は1%となっています。（図2）
- 事故防止対策を実施している家庭の割合は、平成14年度の61.4%に比べて、平成21年度は85.8%に改善されています。
- 児童センター・自主グループの参加数は、平成14年度が226人であったのに対し、平成21年度は195人と変動はありますが、子育て情報交換・相談など活動を継続しています。それとは別にグループ活動のない子育て支援センターやいちごプラザなどの利用は多くなってきています。
- あかちゃん訪問は平成20年12月から全戸訪問を実施しています。（図3）
- 「要保護児童ケース記録」によると、要保護児童数は、平成20年度以降減少しています。これは、平成17年4月より要保護児童対策実務者会議※22を開催し、虐待の早期発見、早期対応に努めていることによるものです。（図4）

図1 「健診時アンケート（H21）より」

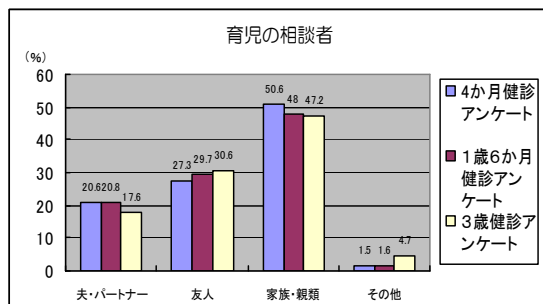


図2 「健診時アンケート（H21）より」

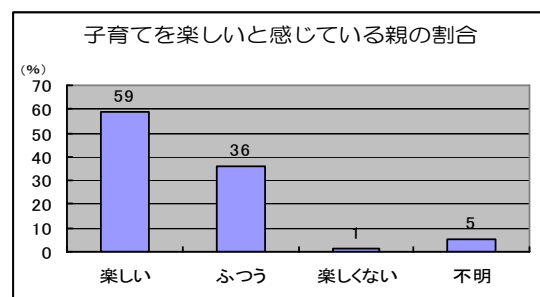


図3 「あかちゃん訪問実績より」

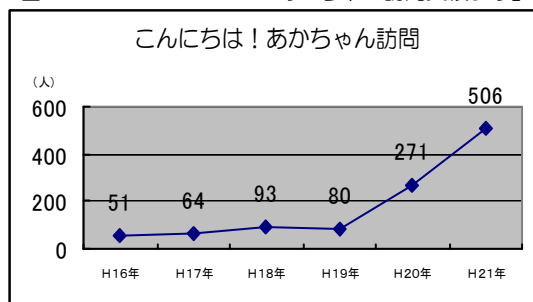
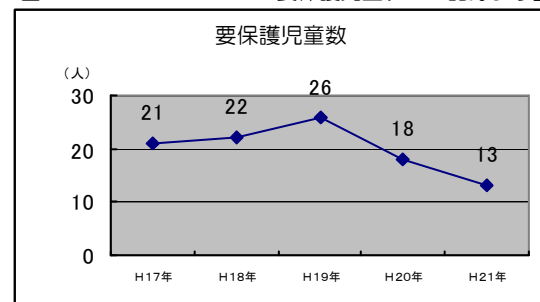


図4 「要保護児童ケース記録より」



## 課 題

市民の生活スタイルは改善傾向にあり、生活スタイルの提案「安心して子育てしよう」、「健康管理をしよう」の達成度合は高い状況にあります。今後も、継続的に取り組みを続けていく必要があります。「たばこ、アルコールはやめよう」では、未成年者の健康的な生活についての啓発をしていく必要があります。

- 育児中の保護者がこどもと接する中で、子育ての楽しさ、喜びを見つけることができ、家族や地域全体で子育てをしていくことが必要です。
- 他機関と連携し、子育てが楽しめる場や相談できる場の充実が望まれます。母親の心の健康を支援していくため、相談、訪問、健診など、子育て支援の継続、充実が必要です。
- 子どもの事故を防ぐため、日常生活の中で、家族をはじめ地域全体が事故防止の認識を深めることが必要です。
- 保健センターは、年齢に応じた子育て情報や保健サービスの提供、事故予防などの啓発が必要です。
- 妊娠中のたばこやお酒といった生活習慣は、赤ちゃんが生まれてからの病気や事故の原因にもなります。さらに、愛着形成を妨害する要因にもなります。生まれてくる赤ちゃんのために、禁煙、禁酒を啓発していく必要があります。
- 未成年の喫煙や飲酒が、心身に及ぼす影響について啓発していく必要があります。
- 思春期の性については、性感染症に関する正しい知識や望まない妊娠の防止など、教育機関と連携した取り組みが必要です。
- 虐待の予防、早期発見、早期対応をするため、赤ちゃんの全戸訪問を継続し、健診の実施や未受診者への対策が望まれます。また、学校、保育園、幼稚園、保健所、医療機関、児童相談センターなどの関係機関と地域とのネットワークの充実が必要です。

### ※21「直接接種」

ツベルクリン反応検査をしないで直接 BCG 接種を行うことを指します。

### ※22「要保護児童対策実務者会議」

虐待やその疑いのある、保護の必要な児童に関する会議です。児童相談センター、こども育成グループ、学校経営グループ、地域福祉グループ、保健福祉グループなどの連携会議です。

## 健康豆知識

### 愛着 (attachment)

他人や動物などに対して築く、特別で情緒的な結びつきを指します。特に、幼児期までのこどもと育児する側との間に形成される母子関係を中心とした情緒的な結びつきのことです。